

1975年12月31日、42回目のメッセージの際、イエスは私達に、この地がかつて教会に属していたものであり、教会に属するべきである、ことを思い出させた。イエスは『町長を訪ねて神がこの土地を所有主になるべき教会へ戻す責務を彼に与える、と伝えなさい。』と言われた。

そして1978年7月7日、イエスはさらに詳しく言われた。『次のことを言ってくださいませか? … 目を覚ましていなさい。… 聖別され、神聖とされたこの山の上、父なる神がお選びになったこの場所で、全てが新しくされるのです。ここでこそあなた方は聖なる都、天上のエルサレムを見るのです。そしてここにあなた方の前に神の御住まいが現れるのです。けれどもその時、この謙虚な神に仕える者が語った言葉を聞くことを拒み、争った者は胸を叩くであろう。』前世紀のデュラン神父は、小教区にノートルダム教会を建てさせた。そして神父はドズレに関する歴史調査を始めた。司教区の古文書によると《Dorsum Ustum 炎の山、燃える山、焼けた山、と書かれている。ラテン語表現によると、Dorsum と言う語はしばしば山を意味する。山は高さであり、背であり、地の肩のようなものである。》《古いプレシス・エスマンガーという街の名は、燃えた山、Dorsum Ustum, Dozure, Dozule にはもはや灰しか残っていないという意味になる。ル・プレシスはその時その名さえ失う。けれどもこの灰からある日ドズレが生まれた。炎による本当の洗礼によって、新たにその名を与えられたのだ。》ル・プレシスは囲い地である。ナポレオンI世時のル・クロゼはラ・オット・ピュット(高い丘)の後方にある平坦な土地の名で、《お城》と呼ばれた農地封土の周りにある。エルマンガルドとはシャルルマーニュ(770)の妻、ルイ・ル・デボネル(818)の妻、ルイ2世(879)の妻、さらに女子大修道院長シュムゼ(886)の名である。7月17日が祝いの日聖女イルマのことである。アニヤールも囲い地である。それは聖母マリア連祷の《Hortus conclusus》、雅歌4章12節のソロモンの囲われた庭である。つまり神に愛される人々のための、神の愛溢れる秘密の園である。そこから、アニヤールあるいはエルマンガールと呼ばれる囲い地の隠修士の名が出て来るのである。アニヤールはIn gaud (-ium), l'En-joie あるいはl'Enjoue と訳され、アニョになった。それは、聖サルピウス(あるいはソルブ)の孤児使徒聖アニヤール、アミアン司教のことで、10月29日が祝い日である。この地は1070-1079年のロベール・ド・モンフォールの勅許状によって与えられた。それから、プレシス・エスマンガールの教会、オージュの聖マルティン・聖バルブのアウグステイノ会教理典範によるゴフリド司祭の囲い地となる。この小修道院はオドン・ステイガン(Mezidon つまりオドンのテーブル)によって始められ、第一回十字軍の間、ギヨーム公爵に管理を委ねられた。

1127年: オドンの孫“ロベール・ド・タンカルヴィルは、この地をアウグステイノ会修道士に与える。

1128年: 初代小修道院長はギヨーム、イギリス王アンリ二世の元財務官。

1153-83 年： 2 代目小修道院長はダニエル。ドズレの土地を受け継ぐ。リズラーのアルヌルフ司教が確認済み。(アンリ二世の勅許状 1185-89)

1131 年： 法王イノサン二世が、この小修道院の不可侵権、自由権、特権を認める。これはローマ・カトリックの免属特権である。

1196 年： 法王セレスタン三世が、リズラーの司教および司教代理に属する修道士の免属特権を認める。ノルマンディー大公領の最高法廷記録書は、その当時(1198 年)の Cul-usle, Dos brule (直訳：焼けた背)について記している。

1246 年： 聖ルイの言行録はこの土地が教会に捧げられた神聖な地であることを確認している。聖ルイは父であるルイ八世がアンリ二世、リシャール・クール・ド・リオン次いでフィリップ・アウグストの贈与を認めた、と記している。(参照：1308 年の照合済み証明書、1673 年の複写がカーンにある)

1247 年： 聖ルイはクリケヴィル・アン・オージュにあるロワイヤル・ブレの聖母マリア修道院への贈与の中で、Dorso usto = Dozule について言及している。

1391 年： Mezidon (メジドン)近郊のサント・バルブ・アン・オージュよりドズレを管理している小修道院長が司教笏杖を受け、さらに 1410 年司教指輪を受け取る。

1642 年： ドズレは、サント・バルブ・アン・オージュと共に、1108 年 5 月 13 日以来パリ司教区から免属されている、教皇庁直属のモン・ド・パリのサント・ジュヌピエーブ司教に属することになる。

1670 年： 12 月 14 日ドズレのギル・クルドゥ小修道院長は貴族の称号(セニョール)をブレ・デウ・ヴァル(土地の名)と引き換えに、ヴィパール・モジュ・ド・シイに売る。

1702-90 年： 小修道院長—主任司祭の名は次の通り続く：ルイ・アトン、ジョセフ・ド・モント・ド・ブラサク、フランソワ・シャイユ、マラン・アミエル、ピエール・デソルネ、ジャン・バティスト・ル・クリスト、ジャン・バティスト・オリピエ。

1790-91 年： 共和主義者の小修道院長—司祭ピエール・ボベの下、教会の土地が売られる。土地は二つに分かれている。1) 現在の墓地近くにあるノートルダム教会、司教館の周り 2) 6 つの区画：《レ・ピュット》、《レ・プレ・デウ・バル》、《ラ・フォリーフテ (高林)》、《ル・ラブール》、《ラ・ピエス》、《ル・クロゼ》
これら全ては《モン・エカニュ》= 楢山、と呼ばれる土地の低林とつながっている。教会と小修道院は聖ジャン・バティストとノートル・ダムに捧げられていた。

1998 年 10 月 13 日 M.D., G.G., D.B.

I. 相戦を受けた数多くの建築家たちは尋ねた：何のプロジェクトなのか？

1) 栄光の十字架の足元に (1972年12月7日、第3回目)

この丘の地形はつまり、小さな丘であり、オット・ビュット (直訳：高い丘) の東、清めの池の北に正方形の台地が広がる。この自然の地形のみが、聖ヨハネの言う神殿の大きさに適合する。

2) 和解の神殿 (1973年6月12日、第8回目)

キリストは何を望んでおられるのか？ 誰が和解するのか？ 誰と？

a) 『この手紙は教会の頭 (法王) に向けたものである』 (1975年7月4日、第33回目)

b) 『あなた方、教会の頭たちに告げる。まことあなた方に言うが、この地上に建てられるこの十字架によって、諸国の民は救われるのである。』

イエスは言われる：父なる神は諸国民を救いたいと望んでおられ、イエスご自身も憐れみを与えたいと願って
ておられる。そしてイエスはマドレーヌに、聖霊《慰め主があなたを導く》と明言なさる。(1977年7月1日、
第45回目)

この和解とは次の3点から成る：

- 1) 父なる神の救い
- 2) 神の子の憐れみ
- 3) 聖霊の導き

父なる神は神を冒瀆する者を救いたいと望まれ (1973年9月7日、第10回目)；

神の子は贖きをもたらす者を買取り；聖霊は神から逃れる者および悔い改めた者を正しい道に導く。イエスは
《人類全て》に向かつて言われる。(1975年12月5日、第35回目) 神殿は下記のための聖なる場となること：

1. 法王と教会の頭たちとの和解のため
2. 諸国民、人類全ての救いのため
3. 罪人、司祭、修道女、信者、異教徒のため
4. 《私は教会に引き付けるであろう》とイエスが明言なさった《異端者および布教者》のため
5. 子供、貧しい人、最後まで苦難に耐え忍ぶ人々のため
6. 煉獄にある魂、頑なな心、凍りついた魂、《私の心を最も深く傷つける者達》のため、とイエスは言われ
る (1975年12月5日)
7. さらにサタンの支配下に入っている者のため

8. つまりは、《滅びの淵にある人類》のため

II. 諸教会および信者全体がどのように共に生きるのか？ またどのように互いに知り合うのか？

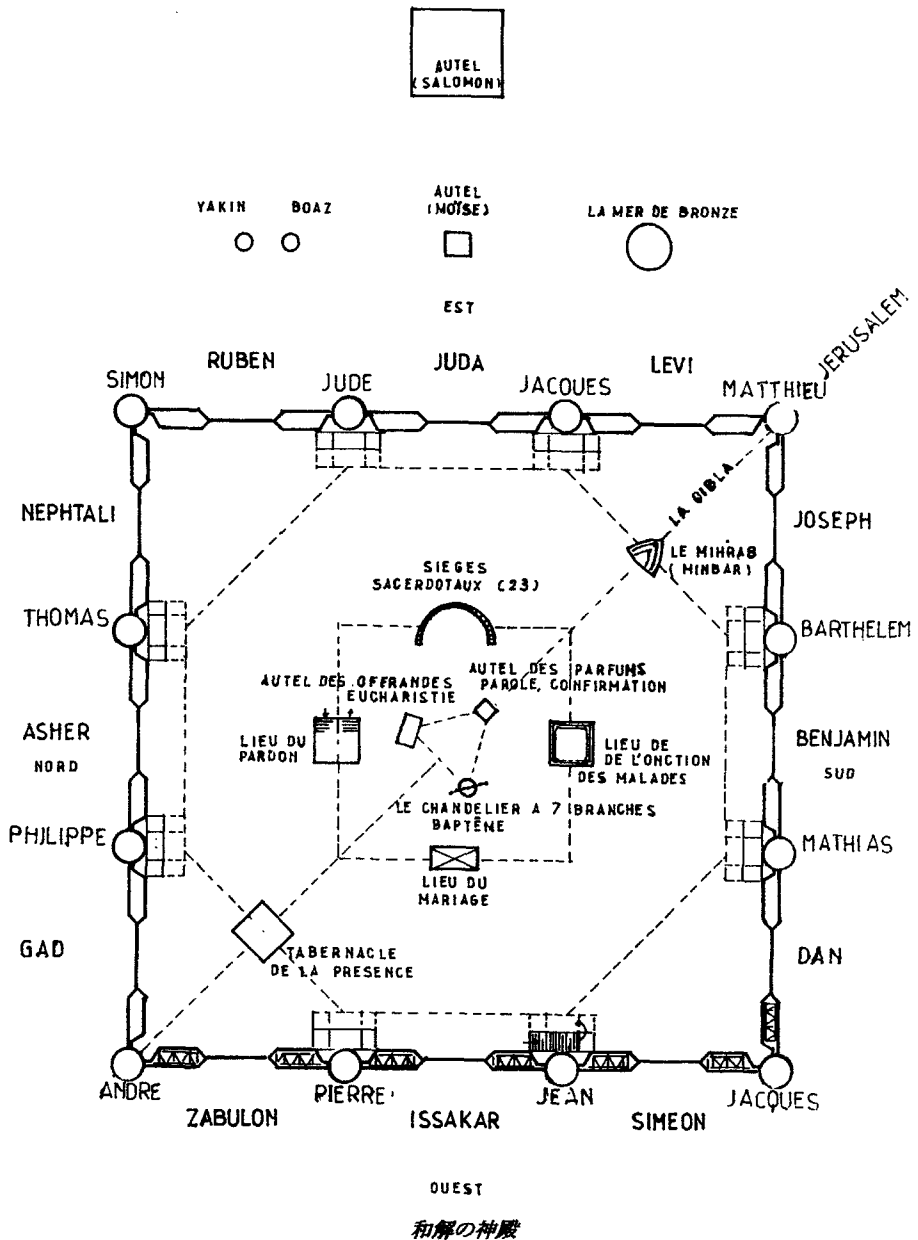
1. ローマ・カトリック教会は、ヨハネ・パウロ二世法王と 11 の総大司教（オリエンタルあるいはラテンの）と共に、司祭品級によって構成されている。ポール六世が司教を枢機脚に命名する。キリストを大司祭と位置付けている関係、つまり聖職位が重視されている。信仰を捨てた科学および産業社会の中で、神の子の愛が示される最良の場であり、そこに何十億もの信者が集まるのである。
2. ギリシャ正教会はビザンチンあるいはオリエンタルの使徒たちに遡る。この教会は唯一、後に、司教、総大司教になれる修道士によって構成されている。預言聖職者および聖靈に聞くことが重視されている。19 の教会がある。つまり、コンスタンティノープル、アレクサンドリア (2)、アンテオケ (2)、エルサレム、アルメニ、シシリー、ジェオルジ、アシリ、エチオピア、キプロス、シナイ、ギリシャ、マケドニア、ブルガリア、セルビア、ルーマニア、ロシア。彼らは特にイスラム教国において、特権を持った希望の証人である。イスラム教徒 10 億人に対して、1 億 7 5 0 0 万人の正教会信者がいる。
3. プロテスタント教会は、西ヨーロッパのルター、カルビン、ズウイングリに遡り、世界教会会議に属する 320 の教会から成る。ルター派、改革派、バプテスマ派、メソジスト派、ペンテコステ派、福音派、英国国教会、長老派、救世軍、アドベントリスト、テーゼ全てで 4 億人の信者を持つ。彼らは福音化という使命の下に働いている。彼らは、司祭品級と修道制度を放棄した。彼らは信仰と人類に対する父なる神からの神聖な使命《生めよ、増えよ、地に満ちよ》を物質的にも精神的にも最重視する。アングロサクソン圏で最も信者が多い。聖職者は牧師であり、また国王に属する。
4. ユダヤ教、イスラム教、エホバの証人は、シャリーア（イスラム宗法）を廃止する救世主の訪れあるいは再臨を待っている。

どうすれば私達は父と子と聖霊の名の下に一つに結ばれていると認めることが出来るのだろうか？ それは、信者たちに共通の聖職者、とりわけプロテスタント教会では一般信徒の王家管轄下にある聖職者、ギリシャ正教会での預言的聖職者、カトリック教会における助祭、司祭、司教、法王といった品級聖職者が、団結することによって実現され得る。それは感謝(聖体)の祈りが言うように、《素晴らしい交流》となるであろう。

『私があなた方を愛するように、あなた方もあなた方の隣人を愛しなさい。あなた方の間では、相手に対する眼差しが愛と親愛で満ちるように。愛と思いやりをもってそこにいる人にくちづけなさい。このくちづけは全世界にとっての愛と和解のしるしです。喜びなさい、マリア、と大天使ガブリエルはキリスト受胎時に言いました。まことにあなた方に言いますが、今日もそれは同じことです。喜びなさい、なぜなら人の子が栄

光のうちに再臨する時が近いからです。サタンは滅ぼされます。後には平安と喜びしか残りません。』

1974年5月1日、第14回目。



和解の神殿

III. 神を結ぶ聖なるしとは？ 楽園、ノアの箱舟、アブラハムの家族以来？

- A) 聖書は東の方向を示している。ユダヤ教会堂はエルサレムと聖堂に向いていた。クリスチャンが東の方向、つまり救世主が来られた場所、へ向くのは正しいことである。同様に、イスラム教徒にとってミフラーブは方角を示し、メッカ、新しいエルサレムの方向へ向いている。ミフラーブ(モスク内でメッカの方角を示す壁の窪んだ所)の近く、イマーム(導師)の天蓋つき説教壇は御言葉の場である。
- モーセは最初の幕屋を作った(5m x 5m x 5m)。それは神の御臨在の幕屋である。

1. 第一の場所はソロモンの至聖所となるであろう。そこに置かれるモーセの契約の櫃には、以下のものが入っていた。

- 1 - 法の石版(十戒)
- 2 - アロンの杖(司教の杖)
- 3 - マナの皿(神のパン)

2. 神の御臨在の礼拝場は聖堂の聖なる場。そこには以下のものが置かれる。

- 4 - 12のパンの捧げ台(一部族あたり一つ)
- 5 - 7つのランプの燭台(聖なる光)
- 6 - 香りの祭壇(神に向かって立ち昇る祈り)

3. 幕屋と聖堂の広場には3つの場がある。

- 7 - いけにえ、犠牲の祭壇、そこで人々は神に献身する
- 8 - 二つの柱、ヤキムとボアズ(神は強め、励ます)
- 9 - 清めのための銅製の海(直径5m)

注： 清めの儀式は、イスラム教徒、ヒンズー教徒にも共通している

- B) 福音と教会は神聖な場を持つ：秘跡

* 聖なる共同体、司教、王、預言者

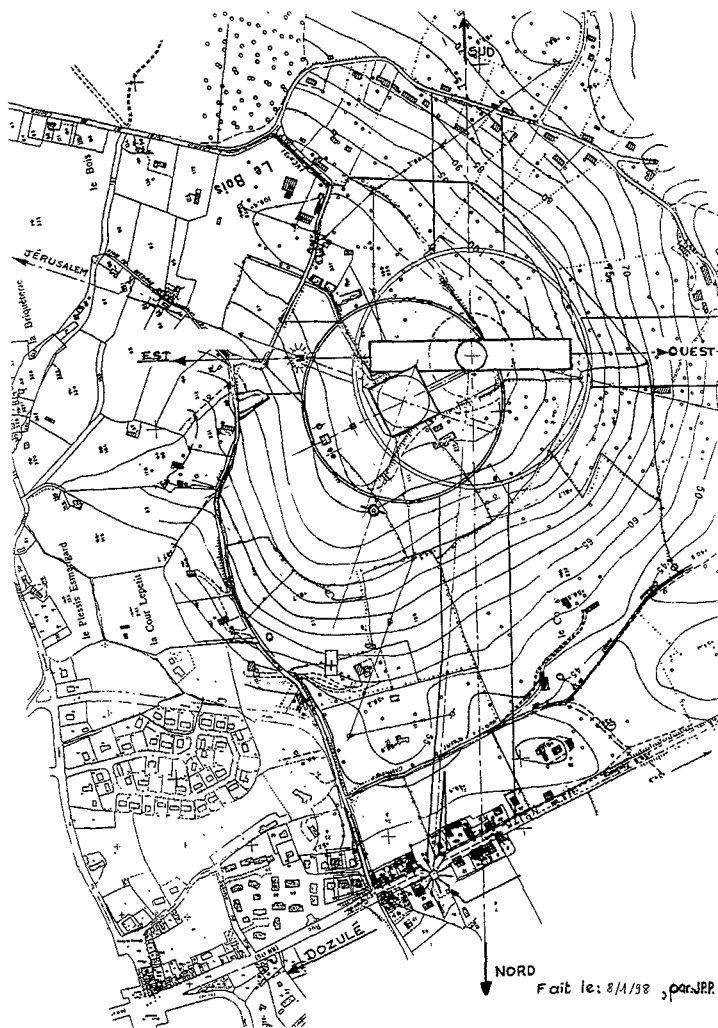
* 聖なる御言葉、聖書と伝統

1. 洗礼、三度聖であられる神のうちにおける誕生
2. 神の御霊における堅振
3. 御聖体、捧げ、いけにえ、キリストにある聖体拝領
4. 罪の赦し
5. 病の塗油

6. 教会に仕える司教、司祭、助祭の品級

7. 婚姻、ここで神は配偶者同士の同意を破棄できないものとする。

1998年5月15日 D.B.



栄光の十字架、和解の神殿、清めの池配置図

(参照:1974年4月5日15回目, 1974年5月3日16回目)

法王に捧げられた十字架は、エカニユ山の斜面下にある

聖ラファエルの家の入り口に置かれている

ドズレでの主の訪れ	p. 5
マドレーヌ・オモンによる序章	p. 11
マドレーヌ・オモンへの主の訪れ	p. 12
メッセージ注釈	p. 92
証言	p. 97
栄光の十字架、復活したイエスのしるし	p. 99
和解の神殿、結びのしるし	p. 101
栄光の十字架、神殿の建設 実現可能性	p. 102
かつて修道院があった地の歴史考察	p. 107
和解の神殿	p. 109

巡礼者は「リソース協会」(Association Ressource) に献金することができます。この口座は、教会が建設を決定するまで存続します。

銀行名、住所 : Credit Agricole - 96, Grande Rue - F14430 DOZULE

銀行番号 : 11406 窓口番号 : 08011 口座番号 : 093 098 20700

年5回発行の「リソース」(Ressource) を予約購読(50フラン)なされば、建設準備の進捗状況を知ることができます。本紙「私の使徒になりなさい」はフランス語、英語、イタリア語、ドイツ語、ヘブル語、インドネシア語、タミル語、オランダ語、アラブ語、ポルトガル語、スペイン語、ポーランド語、日本語に訳されています。さらに近々ロシア語、ギリシャ語、中国語、ルーマニア語等に翻訳される予定です。どうかこのメッセージが広く伝えられるようご協力ください。一冊10フランにて販売しています。購入先は :

Mme G. Gadbois - 24, avenue de Bures, F91440 Bure sur Yvette

インターネット: renseignements@ressource.fr あるいは <http://www.ressource.fr>



© Ressource 30, rue Alexandre Detroy - F 59650 Villeneuve d'Ascq

リソース協会の許可なしに、翻訳、再販することは禁じられています。